

SDGsへの取り組み

「群馬銀行グループSDGs宣言」について

SDGs宣言の考え方

当行では、国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）※」の達成に向けた取り組みをグループ一体となって推進するため、2019年2月に「群馬銀行グループSDGs宣言」を制定・公表しました。

当行グループは、企業理念に「地域社会の発展を常に考え行動すること これが私たちの事業です」と掲げており、社会・環境課題等のSDGs達成に向け、事業活動を通じて、主体的な取り組みを進めたいと考えています。

SDGs宣言では、こうした考え方のもとでSDGs17目標のうち、当行グループの事業内容や営業エリアなどから、特に貢献が可能な7目標を中心に重点課題と取組方針を定めています。

SDGs宣言に基づき、事業活動を通じた社会・環境課題等への取り組みを更に強化し、持続可能な社会の実現と経済的価値の創造に努めます。また、地域のお客さまにも広くSDGsの啓蒙・普及を図るとともに、SDGs達成に貢献するお客さま等を支援することにより、地域全体で持続可能な社会の実現に向けて取組みたいと考えています。



※ SDGs (Sustainable Development Goals) とは 2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のためのアジェンダ2030」で掲げられた17の目標（ゴール）。2030年までに貧困や飢餓撲滅、ジェンダー平等などの社会的課題や環境問題を解決し、持続可能な社会を実現することをめざしている。



※群馬銀行グループSDGs宣言はこちらよりご覧いただけます。

<https://www.gunmabank.co.jp/about/sdgs/index.html>

SDGs宣言と中期経営計画

2019年4月にスタートした「2019年中期経営計画『Innovation 新次元』～価値実現へ向けて～」は、このようなSDGs宣言の考え方をもとに策定しました。当行グループが、中期経営計画の達成に向けて取組むことで、持続可能な地域社会の発展や未来へつづく豊かなくらしを実現し、当行グループの安定した収益と将来にわたる健全性へとつなげていくことをめざしています。

企業理念	地域社会の発展を常に考え行動すること これが私たちの事業です
SDGs宣言	私たちは、地域社会の発展を常に考えた事業活動を通じてSDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献し、持続可能な社会の実現と経済的価値の創造に努めてまいります
中期経営計画「Innovation 新次元」 【めざす企業像】	金融サービスの革新により、お客さまニーズに応え、価値を実現する地域金融グループ

「群馬銀行グループSDGs宣言」達成に向けた新たな取組み

SDGs宣言では、当行グループの事業内容や営業エリアから、特に貢献が可能な7つの目標を中心に4つの重点課題を定め、事業活動を通じた社会・環境課題等への取組みを進めています。SDGs宣言の考え方をもとに策定した中期経営計画における各施策に取組むとともに、課題解決に向けた新たな取組みを進めることで、持続可能な社会の実現と経済的価値の創造に貢献していきたいと考えています。



群馬銀行グループSDGs宣言 (GB Sustainability Policy 2030)

私たちは、地域社会の発展を常に考えた事業活動の推進を通じて、
SDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献し、
持続可能な社会の実現と経済的価値の創造に努めてまいります。

< 重点課題 >

1. 地域経済の持続的発展

2. 地球環境の保全と創造

3. 多様な人材の活躍推進

4. パートナーシップの推進

「SDGs & ESG統括室」の新設

2020年6月、SDGs達成に向けた取組みをよりステップアップかつ加速させるために、当グループのSDGsへの取組みを推進・統括する部署として、総合企画部内に「SDGs & ESG統括室」を新設しました。

今後も、当室を中心に、当行グループ一体となった取組みを着実に進めていきたいと考えています。

温室効果ガス排出量の削減目標および紙使用量における削減目標設定

SDGs宣言の重点課題の一つである、「地球環境の保全と創造」に向けた新たな取組みとして、当行の温室効果ガス排出量の削減目標を設定しました。また、本取組みの一環として紙の使用量における削減目標を設定し、従来より課題認識していた、紙に依存した業務を見直し、デジタル化によるさらなるペーパーレス化をめざしていきます。

温室効果ガス排出量削減目標

2025年度	2013年度比 23%以上削減
2030年度	2013年度比 26%以上削減

※排出係数の増減の影響を排除する為、電気の排出係数を2013年度の計数にて固定して算出。

※温室効果ガス排出量の算出範囲は、群馬銀行国内拠点におけるスコープ1、スコープ2、スコープ3の一部

紙（コピー用紙）の使用量削減目標

2025年度	2013年度比 30%削減
2030年度	2013年度比 40%削減

「TCFD（気候変動関連財務情報開示タスクフォース）」提言への賛同を表明

近年、世界各国で異常気象や大規模な災害等による被害が甚大化するなかで、世界全体で気候変動への対応を進めていく動きが広がっています。また、企業において、気候変動のリスクや機会は、企業の財務情報や戦略にも影響を及ぼすことから、情報開示の充実が求められています。

このようななかで、当行は、2020年7月にTCFDの提言への賛同を表明しました。今後、気候関連リスクおよび機会に関して、TCFDの提言を踏まえた情報開示の充実を図っていきます。

※TCFD(Task Force on Climate-related Financial Disclosures)は、2015年、G20の財務大臣・中央銀行総裁からの要請を受け、金融安定理事会(FSB)が設立した民間主導による気候関連財務情報の開示に関するタスクフォース。2017年、最終報告書を公表し、企業等に対し気候変動関連リスクおよび機会について提言に沿った情報開示を推奨している。

SDGsへの取り組み

環境への取り組み

「ぐんぎんの森」の整備活動

環境保全活動の一環として、群馬県と締結した「県有林整備パートナー事業実施協定」により指定された森林を「ぐんぎんの森」と命名し、その整備・保全活動に取り組んでいます。

新入行員研修には森林整備体験を組込み、森林の整備・保護に関する行員教育を実施しています。
(2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響により未実施)



環境財団の活動

快適で健全な環境の整備向上をめざして設立した公益財団法人群馬銀行環境財団では、環境保全および環境の調査・研究に対する啓発・助成活動に取り組んでいます。

啓発活動の一環として、2019年8月には、小学生を対象に地球温暖化などの環境問題について体験学習を行う「エコ・キッズ・キャンプ in 赤城山」を、また9月、10月には、中学生を対象に渡良瀬川の源流や旧足尾銅山を訪ね、環境学習、植樹体験などを通じ自然環境を守ることの大切さを学習する「環境探検隊」を実施しました。

助成活動としては、2019年11月、群馬県内の小・中学校や高等学校の中から環境改善や保全について実践的で優れた活動を行った14校を「群馬銀行環境財団教育賞」として表彰しました。また、2020年3月には、自然環境の保全活動や調査研究に優れた業績をあげた7団体を「群馬銀行環境財団賞」として表彰しました。



エコ・キッズ・キャンプ



環境探検隊



教育賞：「自然スクール(ヤマメの放流)」(神流町立万場小学校)

地方銀行初のグリーンボンド発行

当行は、2019年11月に地方銀行では国内初の発行となるグリーンボンドを発行しました。

「群馬銀行グループSDGs宣言」では、持続可能な社会の実現と経済的価値の創造に向けて「地球環境の保全と創造」を重点課題の1つと位置づけています。環境保全や美しい環境の創造に取り組むお客さまを支援するとともに、当行のSDGs等に対する積極的な取り組みについて幅広くステークホルダーの皆さまに認知していただくために他の地方銀行に先駆けてグリーンボンドを発行しました。

グリーンボンドの取り組みが高く評価されました。



環境省
第1回 ESG ファイナンス・アワード
銅賞



環境金融機構
第5回サステナブルファイナンス大賞
地域金融賞



社会貢献活動への取組み

文化遺産の保護活動を支援する投資信託の販売

当行と委託会社が受領する信託報酬の一部を世界文化遺産「富岡製糸場・絹産業遺産群」の保護活動のために寄付を行う投資信託「富岡製糸場・絹産業遺産群保護活動応援ファンド 愛称：群馬の絹遺産」を取扱っています。



芸術・文化活動への支援

当行は、群馬交響楽団に対して、定期演奏会を協賛するなど、その活動を支援しています。

なお、群馬交響楽団は、地域社会に密着した芸術活動を行っており、定期演奏会のほか、小中学生を対象とした移動音楽教室を開催するなど、地方における音楽文化の向上に貢献しています。



スポーツ活動への支援

バレーボールのVリーグ女子2部（V2）に参戦している「群馬銀行グリーンウイングス」は、18勝3敗の好成績で2位以下に大差をつけてV2リーグ初優勝を飾りました。その後行われたV1チームとの入替戦では惜しくも敗れ、悲願のV1昇格は持越しとなりましたが大健闘を見せてくれました。

今後もこのVリーグのほか国体への出場をめざして活動していくとともに、バレーボール教室などを通して地域社会への貢献活動も積極的にしていきます。



多くの行員が各地区で開催されるマラソン大会やスポーツイベントの運営にボランティアとして参加しています。

「ぐんまマラソン（2019年11月3日開催）」では、55名の行員がボランティア参加し、15,000人のランナーと心地よい汗を流しました。



金融経済教育への支援

高校生が楽しみながら金融経済に触れ、金融知力を身につける機会を提供するため全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」の群馬大会を開催しています。

群馬県では8回目となる今回は25チーム50名が参加しました。筆記と早押しクイズの合計点上位6チームが決勝へ進み、知識と戦略を競うボードクイズを制した中央中等教育学校「GYM」が優勝に輝きました。



群馬大会に参加した総勢50名の高校生